

当園でのアジアゾウの BCS 利用について

○矢口 茜¹⁾, 佐藤 英雄¹⁾, 飯野 雄治²⁾, 小川 直子¹⁾, 古田 洋¹⁾, 船藤 史¹⁾, 岡崎 孝樹¹⁾
(¹⁾よこはま動物園, ²⁾野毛山動物園)

よこはま動物園では, アジアゾウ No.1: 雄 (30 才) と No.3: 雌 (26 才) の健康管理の一環として, 2018 年から BCS (ボディ・コンディション・スコア) を利用している. 当初, 担当者間のスコア値はばらつきが見られ, 同じゾウに対し痩せてみている職員と太ってみている職員がいた. そのため, 飼料変更の際に担当者間での意見の相違が見られた. ゾウ担当者間の 2 頭の BCS 評価の差をなくすことを目的に, 2020 年 8 月から 21 年 3 月の間, 国内の動物園・サファリパーク等で飼育されているアジアゾウ 66 頭 (16, 50, 0) の写真を用いて, BCS 評価を付ける訓練を行った. 方法は, アメリカの fort worth zoo が出している 1 から 5 段階, 0.5 刻みの BCS を利用し, 評価に利用する部位を項目ごとに明確化した. 月に 1 回約 10 頭ずつ BCS 評価を行い, 同じく月に 1 度実施しているゾウ担当ミーティングの際にフィードバックを行った.

その結果, 21 年 3 月までに 2 頭ともに最大 1 開いていた BCS スコアの差が, 0.5 に縮まった. 以前は回によってばらつきがみられていた平均値が, オスで 3 の前半, メスで 3 の後半と, 2 頭とも適正・普通の範囲内で落ち着いた. 飼料変更の際の意見が一致するなど, 担当者同士の感覚を近づけることができた. また, 施設改修中の体重測定が実施できない期間の健康管理に活用することができた. これらは, BCS 資料の精査及びチェックポイントの明確化, 様々な体格のゾウを多く見てスコアを付ける訓練を行い, それに対するフィードバックを行ったことにより, 当園で飼育している 2 頭の担当者間の差が少しずつ縮まった結果と考える. 今後もスコアを付ける感覚を維持するために, 定期的に全国のゾウの BCS チェックを実施し, 静止画だけでなく動画を見てスコアを付ける訓練を継続していきたい.